

2016年度 上期のご報告

2016年4月1日～2016年9月30日

株主の皆様には、日頃よりご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

ここに、2016年度上期(2016年4月～9月)の当社グループの業績の概要をお知らせ申し上げます。

当上期のわが国経済は、雇用・所得環境の改善を背景とした個人消費の動きに支えられ全体としては緩やかな回復傾向となりましたが、内外需の低迷や円高をうけ、一部に弱さが見られました。

2016年度上期の当社グループの業績は、前年同期に比べ売上高は11.6%減少の3,052億円、営業利益は18.9%減少の138億円、親会社株主に帰属する四半期純利益は78.7%減少の18億円となりました。

売上については、産業電線が、原材料である銅価格下落の影響を受け減収となりました。光ファイバおよび光接続部品ならびに自動車用ワイヤハーネスは、販売は好調でしたが、円高による為替の影響により減収となりました。FPC(フレキシブルプリント配線板)およびコネクタは、為替の影響に加えて大手顧客のスマートフォンの需要が落ち込んだため大幅な減収となりました。

営業利益については、FPCおよびコネクタが、需要減少に為替の影響が加わり大幅な減益となりました。自動車用ワイヤハーネスは、為替の影響を受けましたが、構造改革や生産性改善を進めたこと等により増益となりました。

親会社株主に帰属する四半期純利益は、大幅な減益となりました。特別損失として、古河電気工業株式会社との合併会社である株式会社ビスキャスの合併解消に伴う事業譲渡損失と、自動車用ワイヤハーネスのカルテルに起因する訴訟の和解金を計上し、税金費用として、タイ王国所在の製造子会社における法人税に関して、未確定であったタイ税務当局の見解が示されたことで過年度分を計上しました。

中間配当は、本年5月に発表した計画値のとおり、前中間期から1円増配の1株当たり5円としました。また、株主還元策として本年10月までに12百万株、総額65億円の自己株式を取得しました。

2016年度通期の業績は、円高の継続、スマートフォン需要の減少、建販・市販市場の低迷など非常に厳しい状況が見込まれる中、売上高6,300億円(前年度比7.2%減)、営業利益270億円(同17.3%減)、親会社株主に帰属する当期純利益100億円(同11.6%減)を計画しています。

当社グループといたしましては、円高や需要低迷が継続する厳しい環境下、「稼ぐ力」の維持・強化に向けた諸施策を進めてまいります。

株主の皆様には、引き続きご支援いただきますようお願い申し上げます。

2016年12月
取締役社長 伊藤 雅彦

業績ハイライト

■2016年度上期業績

(単位:億円)

	2015年度上期	2016年度上期	増減
売上高	3,452	3,052	△11.6%
営業利益	170	138	△18.9%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	85	18	△78.7%

■中間配当 2016年度(1株当たり)

5.0円

■2016年度業績見込み

(単位:億円)

	2015年度	2016年度	増減
売上高	6,785	6,300	△7.2%
営業利益	326	270	△17.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	113	100	△11.6%

2016年度上期 カンパニー別業績ハイライト

	2016年度上期業績			2016年度業績見込み		
	2015年度上期	2016年度上期	増減	2015年度	2016年度	増減
売上高	3,452	3,052	△11.6%	6,785	6,300	△7.2%
■エネルギー・情報通信	1,857	1,625	△12.5%	3,665	3,395	△7.4%
■エレクトロニクス	848	718	△15.3%	1,612	1,475	△8.5%
■自動車電装	672	638	△5.0%	1,359	1,283	△9.4%
■不動産・その他	75	70	△6.6%	150	146	△2.7%
営業利益	170	138	△18.9%	326	270	△17.3%
■エネルギー・情報通信	76	75	△0.6%	143	136	△4.9%
■エレクトロニクス	70	26	△62.7%	123	63	△48.8%
■自動車電装	5	15	178.8%	24	34	41.7%
■不動産・その他	18	21	10.9%	37	38	2.7%

※本年4月1日付の組織変更に伴い、2015年度の数字を一部組み替えて表示しています。

カンパニー別概況

エネルギー・情報通信カンパニー

売上は、エネルギー事業部門では、銅価格の下落により前年同期に比べて減収となりました。情報通信事業部門では、光ファイバおよび光接続部品の販売は好調となりましたが、円高による為替の影響により減収となりました。営業利益は、為替の影響による下押し圧力がありましたが光ファイバ等において利益を確保し、カンパニー全体では前年同期並みとなりました。

今後は、国内電線事業の構造改革を進めるとともに、光ファイバなどの旺盛な需要が見込める市場への対応を進めます。

エレクトロニクスカンパニー

スマートフォン向けFPCおよびコネクタの需要が大幅に減少しました。さらに、円高による為替の影響を受け、売上、営業利益とも大幅な減少となりましたが、固定費の変動費化などの施策により営業黒字を確保しました。

今後は、新機種向け製品の確実な取り込みを進めるとともに、製造現場の自動化ならびに需要動向に合わせた柔軟な生産体制の整備を引き続き進めます。

自動車電装カンパニー

売上は、自動車用ワイヤハーネスが、北米市場で好調となり、欧州市場でも新車種向け製品が立ち上がりましたが、円高による為替の影響で減収となりました。営業利益は中国での構造改革やアジアのその他の拠点の生産性改善により増益となりました。

今下期に、ウクライナおよびモルドバで新たな製造拠点を立ち上げます。

最新のIRにつきましては、下記ホームページをご参照下さい。
<http://www.fujikura.co.jp>

株式会社フジクラ

〒135-8512 東京都江東区木場1-5-1

株式事務についてのご案内

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社

連絡先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
0120-782-031(フリーダイヤル)